

国内研修参加者コメント（第162回国際高官セミナー）

2016年3月31日

研修員 自見武士

- 1 アジ研とJICAが私たちを研修員として選んでくださったことに、また、アジ研教官及び全てのスタッフに対し、アジ研における滞在が快適で有意義になるよう努力していただいたことについて、第162回国際高官セミナー研修員を代表して、感謝申し上げます。

個人的には、英語に全く自信がない中での参加でしたが、アジ研教官を始めアジ研スタッフや通訳の皆様、そして私の拙いカタコト英語に根気よく付き合っていたいただいた外国人研修生の方に改めて感謝申し上げます。

- 2 30日間の研修期間中、私たちは、個人発表、アジ研教官による講義、海外客員専門家や国内講師による講義などを通して、新たな学びや気付きがありました。

個人的には、やはり英語によるIP（Individual Presentation）は苦勞しました。日本人研修生に割り当てられた発表時間は30分でしたが、日常生活で英語を話すことはほとんどなく、まして30分もの長時間英語でプレゼンをしたような経験はないことから、発表用の英文については、一つ一つ単語を調べ、発音を確認するなどして（学生時代の受験勉強のような感じでした。）、プレゼンに臨みました。大変貴重な経験をさせていただきました。また、保護司のご自宅へのホームビジットは印象的でした。これまでの私が持っていた保護司のイメージというのは、大変恐縮ですが「説教好きの高齢男性」というものでした。しかし、今回私たちを出迎えていただいた保護司は、品の良いそれでいて快活な女性の方で、良い意味でイメージとの落差を感じました。このような方が日本の保護制度を支えていただいているのかと思うと感慨もひとしおでした。

そして、集団討議の最後には、犯罪者処遇における多機関連携を強化する方策についてさまざまな角度から焦点を当てることができました。研修員がそれぞれの国に戻り、この研修で得た知識を共有することはもちろん、犯罪防止と刑事国際司法システムの一層の推進が図られることを期待しています。

- 3 見学先はバラエティ豊かでした。私たちは、法務大臣、最高裁判所、法務省保護局、法務総合研究所、東京保護観察所、札幌刑務所、札幌高等検察庁、北海道地方更生保護委員会、札幌保護観察所、更生保護施設大谷染香苑への訪問を通じて、多機関連携を通じた犯罪者処遇、刑事司法制度の要を担っている方々にお会いし、経験を共有することができました。そのほか、薬物検査キットを始めとする実際の処遇ツールをなども見せていただき、一層見識を深めることができました。そして、私たちのために盛大なパーティを催していただいた法務事務次官ほか、法務省、アジ研同窓生、アジア刑政財団札幌支部の親切で丁寧なおもてなしに深く感謝申し上げます。

また、私たちは、浅草寺や秋葉原電気街、小樽総合博物館などの歴史的、文化的な施設を訪問しました。特に、当初に予定にはなかった札幌雪祭りの会場散策は大変素晴らしいものでした。雪祭り開催日の前夜だったため、会場は混乱するほどの状況ではなく、私たちは、ほぼ全ての雪像を見ることができ、しっかり写真撮影をすることもできました。外国人研修生はもちろんですが、日本人研修生も大きな雪像を見上げては感動して

いました。予定時間をオーバーしても私たちに付き合っただいたアジ研スタッフには大変ご迷惑をおかけしましたことこの場を借りましてお詫び申し上げます。

日本語教室においては、外国人研修生のために親身になって丁寧に日本語を教えてくださいくださった小池けいこ先生にも感謝申し上げます。日本人の立場からの感想となりますが、外国人に日本語を教えることで、改めて日本語のすばらしさ、そして表現の豊かさを再認識することができました。

その他の企画ですが、ラウンジAでの焼肉パーティ、保護司の方々との懇談会、卓球大会やカラオケなどを通して、外国人研修生と懇親を一層深めることができ、楽しい思い出を作ることができました。個人的には、卓球大会でチーム優勝をし、景品のTシャツ（アジ研オリジナルの非売品）をいただくことができたことは大変幸運でした。

- 4 この国際高官セミナーにおいて、私たちは、「犯罪者処遇における多機関連携」の検討を通じて犯罪予防についてベストプラクティスを共有することができました。このセミナーにおける経験をもとに、それぞれが母国において、日々の業務に生かしているものと思われま。
- 5 最後になりますが、JICA コーディネーターの山本美樹様、比佐圭子様に親身に感謝申し上げますと共に、常にポジティブな態度で私たちを和ませていただき、そして完璧な事務処理をしていただいたアジ研事務主任の小澤陽一氏に深く感謝申し上げます。

以 上